

犬もドックに入る時代

時事深層

2010年11月5日（金）

白壁 達久

高齢化が進み、健康への不安が広がるのは人間だけでない。増加するペットにも「予防」「未病対策」を促す動きが広がりつつある。

大阪府寝屋川市にあるラーク動物病院は、犬や猫だけでなく、ウサギやフェレットの健康診断を手がけて人気を呼んでいる。身長や体重の計測から血液検査、レントゲン検査まで人間と同じような項目で調べる。ガン検診コースなど、専門の検診コースも用意して飼い主の不安に応える。

人よりも病気の進行が7倍速い

ペットフード工業会の調べでは、2008年の犬の飼育件数は国内で約1310万頭で、14年前に比べて約1.4倍になり、猫に至っては1089万頭で1.8倍と急増している。ペットの数に比例して増えるのが、病気の問題だ。

動物は人と違い、体調の変化を飼い主にも見せないようにする習性がある。動物は自分の弱さを最後まで見せようとしなないという、自然界での法則によるものとされる。愛するペットの様子がおかしいと動物病院に連れていっても、「時、既に遅し」で回復が望めない場合が少なくない。

「犬は人より5～7倍ほどの速さで生きているため病気の進行も速い。定期的な検査による早期発見が望ましい」

獣医学における腫瘍の専門家である東京農工大学の伊藤博教授は、ペット健診の重要性を語る。価格は内容によって変わるが、1万5000円程度だ。

しかし、ペット健診に対応できる施設は限られている。獣医のレベルが地域や動物病院によってばらつきがあり、専門性も偏っている。どこに良い医者があるのかさえ情報がなく、かかる費用も分かりづらい。誤診によってペットが死んだとしても、正しい情報がないため飼い主が泣き寝入りすることも珍しくない。そんな状況を打破すべく、新たなサービスが生まれた。

会員制動物病院を運営するチェリッシュライフジャパン（東京都世田谷区、西野高秀社長）は昨年4月、獣医による24時間のペット電話医療相

談窓口を開設した。「正しい情報に飢える飼い主に対して、情報と対処法の両面で支えていきたい」と西野社長は語る。

電話相談は1分につき210円の費用がかかる。腫瘍科や循環器科、心臓血管外科など専門の獣医を顧問に据えてネットワークを結んでおり、ペットの状態を電話で確認したうえで、専門の動物病院や大学病院への紹介も行う。

チェリッシュはペット往診のための専用車も用意。動物病院に行かなくとも、ペット健診が行える体制を整えた。



チェリッシュライフジャパンはペットドック専用の車両で健診する(写真左)。住友不動産は賃貸住宅の居住者向けに無料のペットドックサービスを試行した

そこに目をつけたのが住友不動産だ。同社が運営する高級賃貸マンション「ラ・トゥール新宿」で、住民に対して無料でペット健診が行えるサービスを10月中旬に実施した。マンションまで健診車が訪れ、その場で健診する。

サービスを利用した伊瀬亜紀子さんは「ペットに健診をしたことがなかった。今後も利用したい」と語る。

服を着せたり、犬同士の結婚式を挙げたりと、飼い主はペットの擬人化を強める。人と動物の関係性はより密になっていく。ペットはもはや家族の一員という位置づけになった。ペット健診の拡大と普及は今後より本格化していくだろう。